

企業事例

(株)徳倉 東金工場

徹底した省エネと社内SDGsプロジェクトが
中心となったCO₂削減の取り組み

砂糖を中心とした糖類の粉砕・コーティングなどの製造・加工を行う(株)徳倉は、2006年に千葉県東金市に新工場を設立。11年に「エコアクション21」の認証を取得し、23年には、温室効果ガス削減目標を設定する中小企業版SBT(SME)認定を取得するなど、環境経営やCO₂削減に関する取り組みを行っている。東金工場では、同社創業100周年となる19年に徳倉基宏社長の強い思いで社内SDGsプロジェクトを結成。蛍光灯のLED化を皮切りに空調設備・圧縮機の見直し、EMS(エネルギーマネジメントシステム)の導入、太陽光パネルの設置、再生可能エネルギーの普及に取り組み電力会社との契約というハード面に加え、小まめなフィルター清掃や消灯、社員の意識向上というソフト面を改善し、毎年10%以上の省エネに成功している。



JR外房線・大網駅より、車で約15分の場所にある徳倉 東金工場

【工場概要】

所在地：千葉県東金市丘山台2丁目5番1号
 操業：2006年
 敷地面積：9341m²
 延床面積：8536m²
 稼働時間：6:30～17:00
 製造品目：粉糖、トッピングシュガー
 従業員数：65人(2024年7月時点)



【プロフィール】

1980年生まれ、アメリカ合衆国テキサス州出身。アメリカにて呼吸器内科学を医療学校で学び、2005年に帰国。18年(株)徳倉入社。23年に経営企画室の発足とともに室長に就任。24年に取締役役に就任し、総務経理部長を兼任。

取締役
 経営企画室 室長
 総務経理部 部長
徳倉 奈穂氏
 Nao Tokukura

エコアクション21の
運用に加え社内SDGs
プロジェクトを発足

1919(大正8)年に東京都江東区北砂で糖蜜製造業として創業。以来、含蜜糖・精製糖の製造を経て、現在は砂糖を中心とした糖類の粉砕・コーティング・混合など、多品種にわたる食品原料の製造・加工を行っている徳倉。「笑顔と幸せのみなもとを創る」

企業をビジョンに掲げ、2019年に100周年を迎え、新たな100年の事業創造に向け、チャレンジする企業としてまい進している。売り上げ構成比トップ(40%)を占めるのは、グラニュー糖を微粉砕して粉末に加工した高品質な粉糖で、スイーツのベースとなる生地やクリームなどに練り込むだけで甘味付けできる。独自のコーティング製法によるトッピングシュガーは、湿気の影響を受けにくく時間がたっても水分や油分に溶けにくいので扱

いやすく、上掛け用の「泣かない粉糖」とも呼ばれるヒット商品だ。また糖類のトッピングシュガーの他にココアや抹茶などの食品原料のコーティング加工も行っている。

同社の唯一の生産拠点である東金工場は、06年に稼働した。「社員一同、緑豊かな自然環境の素晴らしいさを再認識しました。そこで環境省が定めた環境に関する第三者認証登録制度「エコアクション21」認証を11年に取得し、PDCAを回しながら継続的改善を図っ

小まめに部分消灯を
心がけるなど
社員一丸となって行う
徹底した省エネ対策

生産工程は原料輸送、粉砕や混合、ふるいがけ、保管、出荷——という流れになっている。電力は照明やコンセントなどの電灯設備のほか、工場稼働中および保管庫の空調、輸送、エアコ

をしています。19年には、代表の強い思いで省エネをメインに取り組み「社内SDGsプロジェクト」を発足しました」と、取締役 経営企画室室長 総務経理部部長徳倉奈穂氏。22年には「ちばSDGsパートナー」の登録認定を受け、環境経営の体制や方針を整備し、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現を目指している。